

登山者を支える伝統：日本の山小屋

中部山岳国立公園全域でおよそ 100 軒の山小屋が登山者に食事や宿泊場所、安全のためのサポート、情報を提供しています。山小屋はもともと、江戸時代(1603-1867)に木こりや猟師によって建てられた小さな避難小屋でしたが、二十世紀のはじめに登山が人気になったことから、小屋は登山者のニーズに応えるようになりました。最も有名な山小屋の中には、最近創業 100 周年を迎えたところもあります。槍沢ロッジは 1917 年、燕山荘は 1921 年から操業しています。この地域が国立公園として指定された 1934 年には、現在の山小屋のほとんどがすでに営業していました。

登山者の数が増えるにつれ、山小屋の規模も大きくなりました。ヘリコプターが使われるようになるまで、すべての物資は人の手によって運ばれていました。ものがいっぱい詰まったバックパックを背負って山を登ったことがある人なら、当時はどんなに大変だったかよく想像できるでしょう。現在では、ヘリコプターによる配達と発電機のおかげで、宿泊客はドラフトビールやアイスクリーム、そしておなかを満たす熱々の食事が楽しめます。大きな乾燥機がある乾燥室は、急な山の雨に降られてずぶ濡れで到着した登山者たちにとって天からの助けです。

山小屋は、それぞれが建っている山と深い繋がりを持っています。山小屋と従業員は、自然環境、登山道、気象条件などに関する知識を教えてくれる歩く百科事典です。ほとんどの山小屋は何世代にもわたって家族で経営されてきました。登山家が今でも使っている登山道は彼らの先祖によってつくられました。山小屋の人々はいまでも、流された橋の交換、破損した道の修復、枝打ちなどの登山道の整備を引き受けています。山小屋は多くの場合、救助活動と通信の最前線であり、時には近隣の医療施設を補助して簡単な医療的処置を行うこともあります。

滞在を最大限に楽しむ：山小屋滞在のアドバイス

ほとんどのヨーロッパの山小屋とは異なり、日本の山小屋の多くは一番高い山々の近くにあり、このような極端な場所で宿泊施設を運営するには、多くの努力と宿泊客の協力が必要です。訪れる日本人客のほとんどはすでに施設の基本的な習慣とスケジュールを知っています。海外から訪れる人も、事前に山小屋の仕組みを知っておくことで円滑な滞在ができます。

早朝から活動開始

一部の登山者はまだ暗いうちから登山を始め、ほぼ全員が午前 5 時 30 分または午前 6 時までには出発します。朝食を用意し提供する必要があるため、小屋のスタッフが働き始めるのはさらに早い時間です。夕食も通常午後 5 時頃と早めに出されます。正しい人数分の食事を用意し、部屋の割り当てをするために、ほとんどの山小屋では登山者は午後 3 時までに到着することが期待されます。遅れて到着するとスタッフの仕事が増え、迷惑がかかります。

テントスペースを借りて自分で食事を作る登山者は、慣習的な到着時間に従う必要はないように思えますが、遅くなると到着したところにはテントの良いスポットがほとんど埋まってしまっているでしょう。天気は一日の後半によく崩れ、しばしば厚い雲と急な暴風雨が発生します。

早い時間にチェックインするもう 1 つの重要な理由は、救助活動はまだ日のあるうちに行くことが重要だからです。高山病や低体温症などの症状には迅速な対応が必要です。

消灯・点灯

施設によって異なりますが、山小屋は午後 8 時または 9 時には消灯し、午前 4 時か 5 時に点灯します。多くの登山者は 8 時よりさらに早く就寝するので、全員そのときまでには静かになります。準備の音で他の人が起こさないように、前の晩に荷造りすることも慣習です。

水：生命の源

水は標高の高い場所では非常に貴重な資源です。山小屋での水の入手しやすさと入手可能な量は、その施設が水源にどれだけ近いかによりますが、どの山小屋でも水の節約に努めています。山小屋の取水方法によっては、水を使うのに料金が必要な場合もあります。

ごみを出さないください

自分が出したごみは自分で持ち帰りましょう。トイレの利用に関するルールは山小屋によって異なります。一部の山小屋では使用済みトイレトーパーをトイレの横のくずかごに入れる必要があります。トイレのし尿は、公園の外に運ばれるか、下水処理設備で分解されますが、どちらもかなりの負担になります。山小屋とキャンプサイトの宿泊客は無料でトイレを使用できますが、他の人は 1 回の使用につき 100 円の協力を求められます。

混雑することもある

山小屋は、ピークシーズンや週末には非常に混雑します。安全に滞在する場所を必要とする登山者を断ることがないので、誰かと同じ布団で寝なくてはならない可能性もあります。ぎゅうぎゅう詰めになるのが嫌な場合は、週末とピークの時期を避けましょう。

予約

できる限り事前に予約しましょう。しかし、すべての山小屋で予約を受け付けているわけではないので、事前に慎重に選択肢についてよく下調べすることが必須です。予約をしたものの悪天候などでキャンセルする場合は山小屋に必ず連絡しましょう。予約客が到着しなければ、登山中のアクシデントの可能性について心配させることになります。

現金

山小屋はクレジットカードを扱っていないので、必ず支払いのための現金を用意しましょう。

登山のヒント

- 他の登山者とすれ違うときは、下る人より登る人が優先です。

- 登山道にある岩には、正しい道を示す「O」、または、避けるべき方向を示す「X」の印が付いていることがあります。
 - 地面から外れた岩が下にいる人を危険にさらす可能性がある場合、登山者は落石の略語である「らく！」と叫びます。都合がよいことに、その発音は「ロック」という言葉に似ています。
 - 山の斜面は非常に勾配がきついことがあります。登山道を外れるのは自然環境の破壊につながるだけでなく、危険でもあります。
 - 山小屋のスタッフは周辺のことをよく知っているので、彼らのアドバイスには従いましょう。
 - 一部の難易度の高い区域ではヘルメットをかぶることが推奨されます。
-
- 高山の天気は急変することがあります。雨に備えるとともに天気予報を頻繁に確認しましょう。
 - 登山中に日が暮れたり、夜明け前に出発したりする際、ヘッドランプがとても役立ちます。
 - 登山道の入り口またはインターネットで登山届を提出しましょう。登山届は、万一の緊急事態の際に非常に重要です。